



高森町

ちいきほうかつしえん
地域包括支援センター便り

認知症サポーター養成講座報告

各地区・職域で開講

平成23年度までの受講者 1317人



3月27日受講
JA阿蘇女性部
高森支部の皆さん

本町に限らず、「認知症」が介護状態に入る原因の一番目になっています。
このため、本町では認知症予防教室などの介護予防事業を実施すると共に、認知症の原因や認知症の方への対応、そして予防や早期の診断と治療の大切さなどを正しく学び、地域全体で認知症の方とそのご家族を支えていく事を目的として、認知症サポーター講座を開講してきました。
写真のとおり、3月中も各地区や職域等で開講しました。平成23年度末の本講座の受講者の累計は1317人となり、町の総人口に対する比率として18%を超えました。
これまで受講いただき、大変ありがとうございました。
平成24年度も町内の各地域や職域、職場、学校などで引き続き開講しますので、講座受講のご希望はご連絡ください。

3月24日受講 西中原の皆さん



3月18日受講 東中原の皆さん



3月19日受講

高森町商工会役員の皆さん



●この講座の詳しいことは、本誌の平成23年7月号に掲載していますのでご覧ください。
●講座受講のご希望は……62・1111 内線120番までご連絡ください。
(お一人あるいは少人数でも開講します。受講料は無料)

高森町地域包括支援センター

高齢者一人暮らし、二人暮らし、昼間の一人暮らし、認知症などのご相談をお受けします

祝祭日・年末年始を除く月曜から金曜の午前8時半から午後5時まで

電話62-1111 内線126番

高森町の高齢化率（平成24年3月末日現在）

世帯数 2,816				
人口	男	女	計	比率
	3,409	3,748	7,157	
65～74歳	410	513	923	12.90%
75歳以上	563	875	1,438	20.09%
計	973	1,388	2,361	32.99%

2月24日 高森高校

認知証サポーター講座から

講座後にたくさんさんの素晴らしい感想が寄せられました。先月号の認知機能までの感想に引き続き、今月号でも紹介します。(要約して掲載)

「福祉の心」でみんなを支えます



認知症と脳を正しく理解する

◆脳細胞は胎児の時につくられることや、脳の発達段階や機能・役割を聞いて、脳は素晴らしいものだと感じた。この脳を大切にしなければならぬ。

◆認知症にはアルツハイマー型や脳血管性のものであり、見たり聞いたり歩いたり普通に出てくるのに、正しい認識や行動が出来なくなる脳の病気である。

◆認知症は誰でも成り得ること。そして、記憶障害、判断力の低下などが起こり、普通に出来ていたことが出来なくなる脳の病気である。



早期診断と早期対応の大切さ

◆認知症は成人病にならないことなどで予防できることや、早く治療をすることで進行を遅らせることが出来ることを知った。

◆認知症と物忘れの違いも良く解った。家族などで心配なところがあったら病院に行くことをすすめたい。

◆私たちはまだ若いですが、色々

な成人病が血管を痛めて認知症や色々な病気にも関係することを知った。健診を受けたら、正しい食生活と運動は大切である。

認知症の人のこころ・気持ちを理解し対応する

◆認知症になったら記憶が消えていくことで不安になり、色々な悩みにつながることを知り、安心させてあげる事が大切である。

◆認知症の方は全てが解らない……出来ないということではなく、出来ることも多い。

◆認知症になっても自分らしく頑張って生活したいという気持ちを大切にしたいと思った。

◆認知症の方に対して間違った接し方をすると悪化することを知った。

◆認知症の人が同じ事を何度も言うてきても、すぐに叱ったり否定したりせず、他の人と変わらない対応をして安心させてあげたい。

◆認知症の方は見るもの聞くものが3倍速位で認識されていることを聞いて驚いた。ゆっくりとていねいに対応してあげたい。

◆若い時に得意だったことなどはしっかりと記憶に残っていて、それをうまく促せば

ば他のところも良くなることがあることを知った。

◆認知症の人も介護する人のどちらの気持ちも理解して、自分が出来ることをしてあげたい。

◆家族や身近で実際にそういう事があつたら、今回の講話を思い出して、正しい知識と勇気をもって声かけや、優しく支えてあげたい。

◆みんなが認知症を正しく理解すれば、もしも認知症になつても助け合えるので、色々な不安は少なくなると思った。



「未来」に向けて思うこと

◆将来、私は……福祉関係の仕事をしたい。認知症の事に限らず、福祉の心も学び将来に生かしたいと思った。

◆福祉とは……「みんなが幸せに生きること」そして「あたたかい心の助け合い」という講話を聞いて、福祉関係の仕事に就くことも考えたいと思った。

◆色々なところでの交流が地

域全体での助け合い・支え合いにつながると思った。

◆お年寄りが多くなることは高森町だけでなく、日本全体のこと。そして認知症は他人事ではない身近なこととして、みんなでしっかり受け止めなければならない。

◆全ての人が認知症に関わる可能性を知り、これから何を考え、どう対応していくべきかを考える良い機会になった。

◆今回の講話の内容を家族にも話したい。そして回りに広め、みんなが継続して真剣に向かい合うことが大切だと感じた。

◆今日の講座の後にいただいた「オレンジリング」は、認知症の方を支えるサポーターの証。今日の講話を家庭や学校生活、そして社会に出た時などに生かしたい。

◆私には大好きな祖父母がいます。私を可愛がってくれます。いつまでも元気でいて欲しいです。そして、もしも認知症になつても優しく支えてあげたいと思いました。

◆高森高校の皆さん。たくさんさんの素晴らしい感想を寄せていただきありがとうございます。これからも認知証や福祉の良き理解者としてよろしくお願いします。

高齢者福祉・介護保険についてのおたすねは、介護保険係62-1111（内線127番・128番）までどうぞ